

1. 同梱ファイル

WSJT_To_Hamlog_2009.06.07.lzh には以下のファイルが含まれます。

WSJT_To_Hamlog.exe	実行ファイル
WSJT_To_Hamlog_Quick_Guide_2009.06.07.pdf	この説明書

2. インストールと実行

WSJT_To_Hamlog_2009.06.07.lzh を解凍し、適当なフォルダに置いてください。

WSJT_To_Hamlog.exe が置かれたフォルダはワークエリアとして使われますので、R/W 出来るエリアを指定してください。 WSJT(WSJT7)の置かれているフォルダと一緒に置いておけば、フォルダの指定などが便利かもしれません。

バージョンアップの場合は、従来バージョンに上書きインストールしてください。

WSJT_To_Hamlog.exe を実行すれば起動します。

ショートカットをデスクトップに貼り付けておけば、何かと便利だと思います。

新たにインストールした時は WSJT_To_Hamlog.ini が存在しないので、初期値で WSJT_To_Hamlog.exe と同じフォルダに作成されます。次回の起動からは、設定された値で起動します。

バージョンアップで、ini ファイルの形式が違う場合は、最初の起動時に、旧バージョンの WSJT_To_Hamlog.ini ファイルを新しいバージョンのフォーマットに変換します。

古い WSJT_To_Hamlog.ini ファイルは、WSJT_To_Hamlog_20090518.ini などと、古いバージョンの日付を付けた名前に変更して、バックアップが取られます。

次回の起動からは、新しいフォーマットの WSJT_To_Hamlog.ini を読み込みます。

WSJT_To_Hamlog Ver.2009.05.20 以前からのバージョンアップは、画面サイズが変わりますので、WSJT_To_Hamlog.ini ファイルを一旦削除して、起動するのが便利だと思います。以下の手順で操作すると、古い、ini ファイルの保存が可能です。

- ・上書きインストールして、一旦起動させると、古い ini ファイルのバックアップが保存されます
- ・一旦終了させて、WSJT_To_Hamlog.ini ファイルを削除し、再度立ち上げます。
- ・そうすると、初期値で WSJT_To_Hamlog.ini ファイルが作成されますので、各種設定をもう一度、設定し直します。
- ・これで、終了すれば、新しい設定値が保存され、次回からこの設定値で起動します。

実行には以下の物が必要です。

Microsoft Windows XP SP3

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1

Microsoft .NET Framework 3.5 Language Pack SP1 - 日本語

(Windows XP SP2 に Microsoft .NET Framework 2.0 以上であれば動作する様です。)

(Windows Vista でも動作するというレポートがありました。)

.NET Framework については、ウィキペディアなどに分かり易く解説されています。

従来の VB ランタイムに相当する物です。

WindowsXP を SP3 にアップしていても、.NET Framework 1.0 のままの場合が多いです。

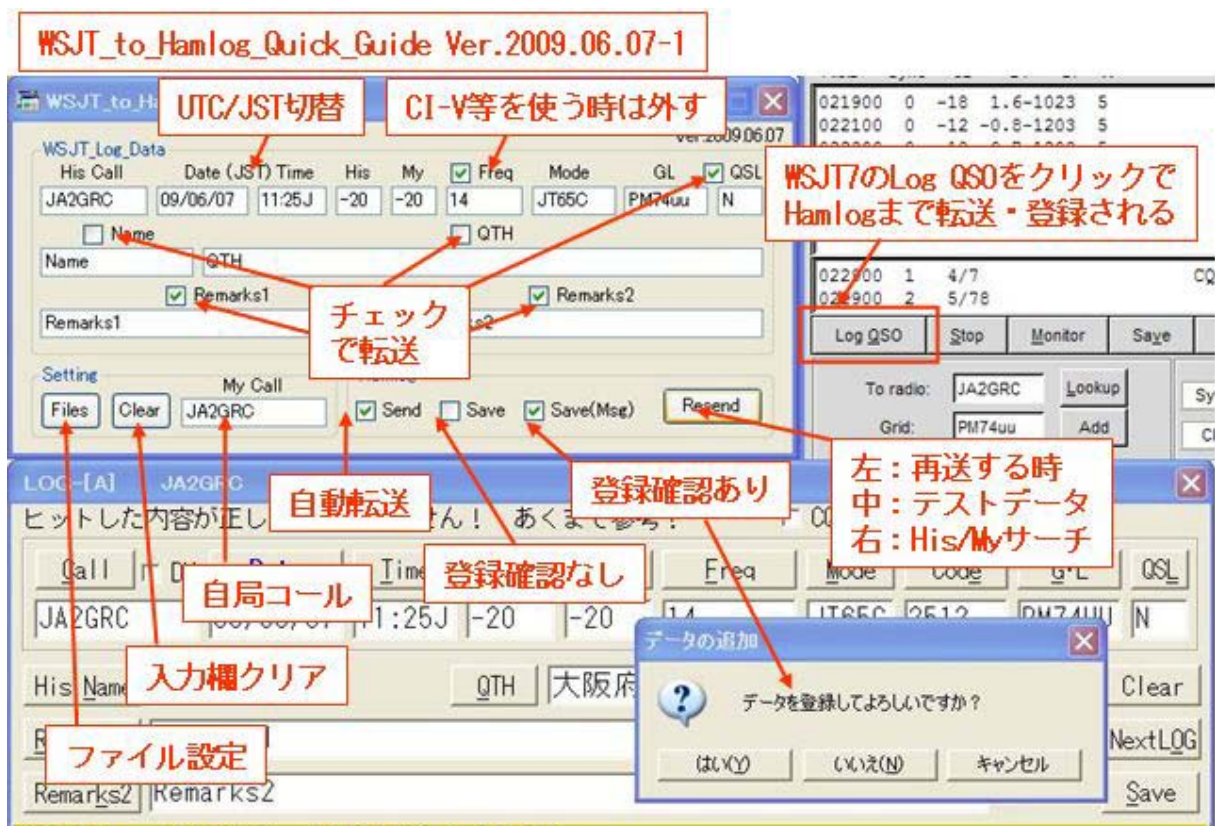
「プログラムの追加と削除」でバージョンを確認してください。

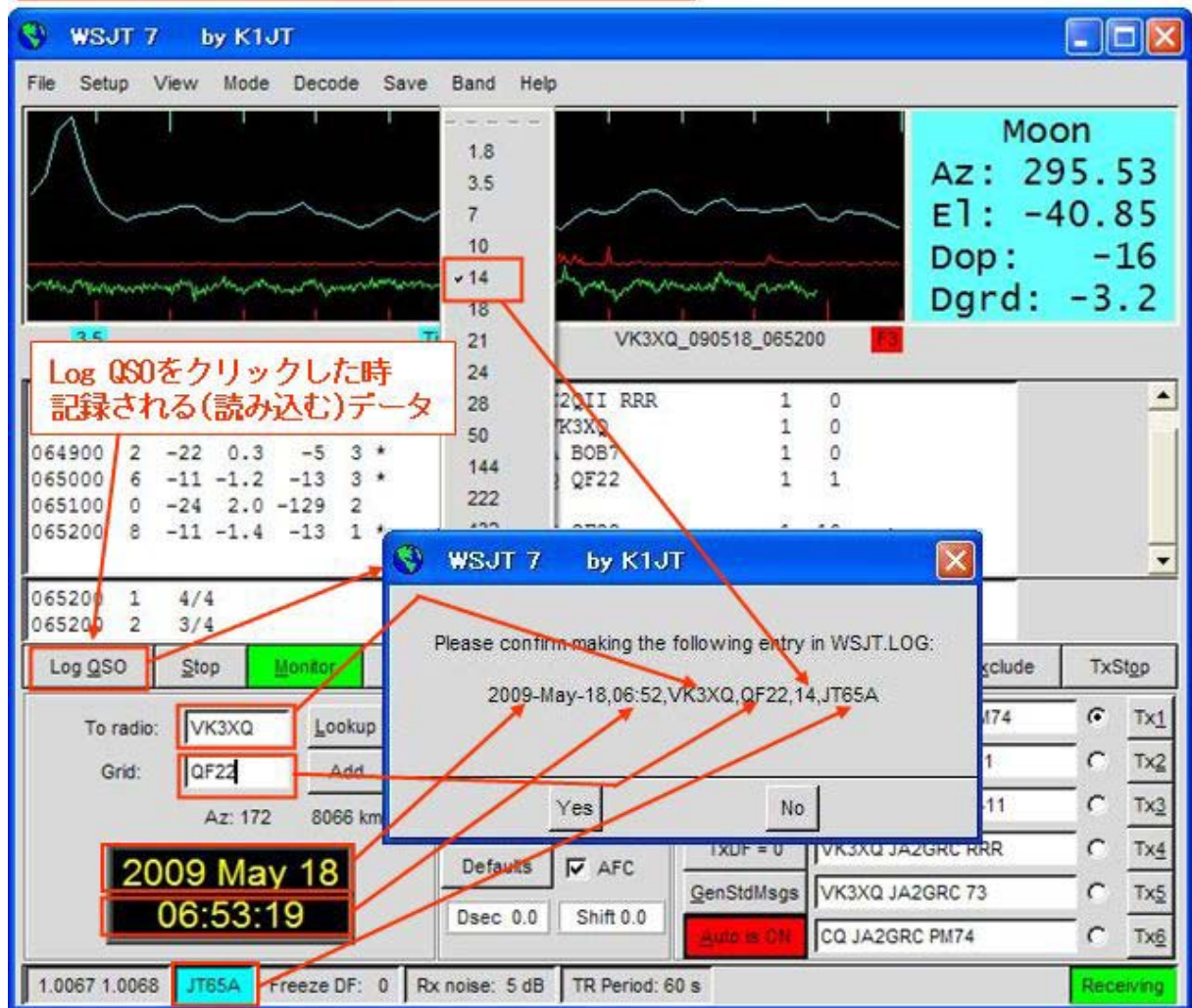
今後とも、Microsoft の主力となる環境ですので、アップしていて損は有りません。

.NET Framework 3.5 のインストールには、MicrosoftUpdate を利用すると安全です。

- ・ MicrosoftUpdate の「ようこそ」画面から「カスタム」を選択

- ・左のサイドバーの WindowsXP を選択
 - ・メイン画面の Microsoft Windows XP の一覧から Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 および .NET Framework 3.5 ファミリー更新プログラム(KB951847) x86 を選択し、ダウンロード・インストールする。
 - ・インストールにはかなりの時間（数分～十数分）がかかります。ハングアップしたかと勘違いしますが、じっと待ってればインストールが始まります。
 - ・後は、メッセージに従って、再起動すれば完了です。
 - ・「プログラムの追加と削除」で確認すると、.NET Framework 3.5 だけでなく、途中のバージョンもインストールされています。
3. アンインストール
インストールした全てのファイル、および、作成された WSJT_To_Hamlog.ini および変換された古い ini ファイル WSJT_To_Hamlog_20090518.ini 等を削除してください。レジストリは使っていません。
4. 操作の簡単な説明（特に注釈のないクリックはマウス左ボタンクリックです）
- ・起動時の設定
 - ・インストール後、最初の起動時には、ini ファイルが無いので、初期値で起動します。終了時に各種設定を、ini ファイルに保存し、次回からはこの ini ファイルを読み込み、前回の設定の状態ですべて起動します。
 - ・もう一つ、インストール後、最初の起動時に、WSJT7 関連のファイルの設定をします。設定ダイアログに従って、WSJT.LOG または、ALL?TXT の位置を設定してください。
 - ・WSJT7 をインストール以来、一度も、「Log QSO」をクリックしたことが無い場合は、WSJT.LOG が作成されていないようですので、実行前に一度だけクリックして、WSJT.LOG を作成して置いてください。





・簡単な操作説明

- ・通常は Send チェック欄と、Save または Save(Msg)チェック欄のどちらかにチェックを付けておきます。
- ・WSJT7 でレポートを交換終了して交信が成立した時点で、「Log QSO」をクリックし、出てきたダイアログの内容を確認して、「Yes」をクリックします。
- ・これで、表示されたログデータをもとに、シグナルレポートの検索をし、ログデータとシグナルレポートを同時に Hamlog へ転送・登録します。
- ・他に特別な操作は必要ありません。

・ My Call, Date, Time, His, My, Freq, Mode, GL 入力欄

- ・ WSJT7 から読み込んだログを表示します。
- ・自動転送しない場合は、手入力で修正が可能です。

・ QSL, Name, QTH, Remarks1, Remarks2 入力欄

- ・任意のデータを入力できます。
- ・固定的なデータを書き込みたい場合に入力しておきます。
- ・QSL 欄をクリックすると”J”と”N”が交互に切り替わります。
- ・チェックを付けている項目が Hamlog に送出されます。

- (UTC)/(JST)ラベル

- ラベル(文字)をクリックする毎に表示が(UTC)と(JST)に切り替わります。
- 同時に、Date、Time 欄の表示内容も、UTC と JST に切り替わります。
- 表示されている日付・時刻が Hamlog へ転送されます。

- Freq チェック欄

- CI-V 等を使って周波数を Hamlog に読み込む設定をしている場合はチェックを外しておきます。この場合は、周波数は Hamlog へ転送されません。
- チェックを付けている場合は WSJT7 からの周波数が Hamlog へ転送されます。

- Files ボタン (WSJT7 関連ファイルの設定)

- インストール後、最初の起動時にする WSJT7 関連のファイル設定と同じ動作をします。

- Clear ボタン (データ入力欄のクリア)

- My Call, Date, Time, His, My, Freq, Mode, GL の各入力欄をクリアします。

- My Call 欄 (自局コールサイン)

- 自局コールサインを入力しておきます。
- His、My の信号レポートの検索キーとして使いますので、必ず、WSJT7 で使う自局コールサインと同じものを入力してください。

- Send チェック欄

- チェックを付けていると、WSJT7 から新しいデータが取り込まれた場合、自動的に Hamlog に転送されます。また、右の Save, Save(Msg)欄が操作可能になります。
- Resend をクリックして Hamlog へ手動転送する場合もチェックを付けて置いてください。

- Save、Save(Msg)チェック欄

- ここにチェックを付けていると、自動または手動で Hamlog へ転送した場合に、自動登録されます。
- Save の場合は、確認メッセージなし、Save(Msg)の場合は確認メッセージありとなります。

- Resend ボタン (手動転送)

- 左クリックしますと入力欄の内容を Hamlog に転送します。
入力データを書き換えた時などに使用します。
- 真ん中クリックで、テストデータを入力欄に設定します。
- 右クリックで、His, My データの再検索をします。

5. 処理の簡単な説明

- WSJT7 ログデータの取込

- タイマー設定 (標準は 1 秒ごと) により、WSJT.LOG を読込、一番最後の行を取り込む。
- His Call と Time が前回取込データと同じなら、何もしない。
- His Call と Time が前回取込データと違っていたら、新しいデータと判断して入力欄に取り込む

- His、My レポート検索のアルゴリズム

- 上記の WSJT7 ログデータの取込が終了したら、続いて、ALL.TXT を取込み、最後の方の既定の行数 (標準では 32 行) を取り出す。
- 取り出した行を最後(最新)の方から順に検索する。
- His は「Transmitting:」と表示された行を探し出し、以下の形式のものを検索する。

RO → O を His とする。

His Call My Call R-nn → -nn を His とする。

- His Call My Call -nn → -nn を His とする。
 His Call My Call 000 → 000 を His とする。
- My は「*」または「#」の付いた行または、ショートメッセージの行を探し出し、以下の形式のものを検索する。
 - 「*」
 - My Call His Call R-nn → -nn を My とする。
 - My Call His Call -nn → -nn を My とする。
 - 「#」
 - My Call His Call 000 → 000 を My とする。
 - 「ショートメッセージ」
 - RO → O を My とする。
 - なお、His または My を採用したデータの時刻を Time に置き換える。
 - 検索は最大 32 行まで遡るが、見つけた時点で終了する。

• 高度(危険)な操作

- 上記のファイル操作や検索を行う場合は、タイマーを止めているので、問題は起こらないと思いますが、タイマー周期や検索行数を変更したい場合は、ini ファイルをテキストエディタで修正してください。
- ini ファイルのバックアップを取ってから実行してください。
- タイマー (ini ファイル、2 行目、初期値：1000)
 - 単位は ms です。あまり大きくすると、WSJT7 の Log QSO をクリックしてからのタイムラグが気になります。
- 検索行数 (ini ファイル、3 行目、初期値：32)
 - 最大 256 まで設定できます。
 - あまり小さくしすぎると検索に引っかからない様になります。
 - 最初に見つけた時点で処理をやめますので、あまり大きくしても意味がありません。
- 動作がおかしくなった時は、バックアップファイルに戻すか、ini ファイルを削除してから立ち上げ直してください。

6. 既知のバグ

- 今のところありません。

7. 更新履歴

Ver. 2009.06.07

- QSL, Name, QTH, Remarks1, Remarks2 入力欄 (チェック付き) を追加。

Ver. 2009.05.20

- WSJT.LOG が存在しない時の処理を改良。
- 日付をまたがって QSO したログの日付の処理を改良。
- 日付・時刻表示 (=Hamlog 転送) を UTC/JST 切替出来る様に改良。

Ver. 2009.05.18

- 基本機能でのファーストリリース

JA2GRC/3

URL: <http://homepage3.nifty.com/hirotaka929/>